

第1回

大学入学者選抜における総合的な英語力評価を推進
するためのワーキンググループ

7 Dec 2021

ブリティッシュ・カウンシル 安田智恵

① IELTS概要

- 107 -



IELTSスコアの利用状況

- International English Language Testing System
- 英語4技能の運用能力を証明するためのテスト
- 世界で現在もっとも受験生の多い4技能英語テストの一つ

Global Recognition: 世界でのIELTS

全世界で年間350万人が留学・移住を目指して受験

140ヶ国 11,000機関が採用

140ヶ国 1,200会場で実施

アメリカ合衆国でも 3,400以上の教育機関が採用

Domestic Recognition: 日本でのIELTS

現在約60の大学が入試要件の一部として採用

人事院、英語教員採用試験での活用



新高等学校学習指導要領(2018年告示/2022年導入)との 関連性

- 実際に使う英語を場面に即した出題によって英語の真のコミュニケーション力を測定
- 4技能を個別に測定、均等比重で総合力評価
- 自分の言葉として英語を運用する力を測定
- 英語5領域を測定する形式



生涯にわたって使える英語の習得

英語5領域を測定する形式—生涯にわたって使える英語の習得—発信力向上に有効な学習的波及 (大学1年生が受験した事例 *1)

関連論文・情報

*1 Investigating washback to the learner from the IELTS test in the Japanese tertiary context:

<https://language-testing-asia.springeropen.com/track/pdf/10.1186/s40468-016-0030-z>



IELTS 実施形式の多様化

1. IELTS on Paper (IELTSペーパー版)

- 2018年 大学入試英語成績提供システム利用テストとして承認
- 現在全国約15都道府県で定期的に行われる
- 基本的に土曜日に実施

2. IELTS on Computer (IELTSコンピューター版)

- 2019年より導入 大学入試英語成績提供システム利用テストとして申請後中止決定
- 全国3都市の常設会場で実施
- 毎日実施が可能

3. IELTS Online (IELTSオンライン版)

- 2022年導入予定
- 一定の条件を満たした環境で受験が可能(自宅等を含む)

✓ 出題と採点基準はすべての形式で同じ。

✓ すべて正式な成績として利用可能。

(参考: 英国ビザ申請用IELTSについても1と2の形式で実施中。)

IELTSのスコアー成績

IELTSの成績は合否ではなく、スキル別と総合(Overall)の英語力を、0.5刻み9段階のバンドスコア(Band score)で評価します。

↑
↑
↑

Overall band score	
9: Expert user	英語母語者レベル
8: Very Good User	ほぼ正確にコミュニケーションができる
7: Good User	慣れていない事項も対応可能(大学院)
6: Competent User	慣れている事項はよく理解できる(大学)
5: Modest User	慣れている事項はコミュニケーションができる
4: Limited User	
3: Extremely Limited User	
2: Intermittent User	
1: Non- User	

Score	CEFR
8.5 - 9.0	C2
7.0 - 8.0	C1
5.5 - 6.5	B2
4.0 - 5.0	B1
1.0 - 3.5	Below B1

②現在の取り組み

- 112 -

大学入試利用で期待できる点：すでに導入・実施されている運営と規定

大学入試のあり方に関する検討会議(第11回 2020年7月7日開催)発表資料を更新したものです。

- **試験の質や水準等に関する第三者評価のあり方や調査研究の実施**

IELTS Global Partners (IDP, Cambridge, British Council) 主導で試験の質、採点、受験者のパフォーマンスに関して、外部研究者による研究と調査を継続的に実施 (*2)

第三者機関(Ofqual)によるCEFRと採点基準、実際の結果に対する監査

- **成績提供の利便性の向上**

IELTSの成績認証システム(IELTS Test Report Form Verification Service)により、登録・認定された高等教育機関等ではオンラインでの成績確認やダウンロードが可能

- **公正・公平性 (問題集の出版などを含む試験実施団体内部での利益相反等に関する問題への対応のあり方)**

英国政府管轄の第三者機関Office of Qualifications and Examinations Regulation

(Ofqual: 英国政府の資格と試験に関する監査機関)による監査によって公正・公平性を担保 (*3)

- **安全なテスト運営**

世界的に規定されている運営規定に沿って、感染症対策も含め、セキュリティーの質を保った安全な運営

- **受験上の合理的配慮**

全ての障害をもった受験生に個別に対応、宗教・ジェンダーで配慮が必要な受験にも対応

関連論文・情報

*2 IELTS研究論文・資料: <https://www.ielts.org/for-researchers/research-reports>

*3 大学入試英語4技能評価ワーキンググループ(第2回)資料: https://www.next.go.jp/content/20191224-mxt_daigakuc02-000003550_16.pdf

Ofqual: <https://www.gov.uk/government/organisations/ofqual/about#who-we-are>

現在の取り組み

大学入試のあり方に関する検討会議(第11回 2020年7月7日開催)発表資料を更新したものです

- 高校会場の拡充: コロナ感染の収束状況をみながら拡充予定
- オンライン受験システムの整備: 2022年導入を目指して調整中
- 試験料金: 経済困窮者への配慮は可能
効果としては限定的な可能性有

- 114 -

対応が難しい点

- 弁別性: 9段階のバンドスコアで英語力を評価、A1/A2非表示
- 日本独自のシステムへの対応: 身分証明書規定の順守→受験の際にパスポートが必須

大学入学者選抜における総合的な英語力評価 IELTS以外での取り組み

- 115 -

大学入試のあり方に関する検討会議(第11回 2020年7月7日開催)発表資料を更新したものです。

BCT-S (British Council TUFS - Speaking Test for Japanese Universities) は、東京外国語大学とブリティッシュ・カウンシルが協働で開発した大学入試用スピーキング・テスト。 (*4)

大学入試利用で期待できる点

- 国際的な基準のテストでスピーキング力を測定
- 日本の英語学習者を対象にした作問
国際的な基準を日本の大学入試で活用
- 大学のアドミッションポリシー、入試方法に合わせて導入が可能
既存の入試もそのまま活用しながらの導入
入学後の指導に活用
- 受験上の合理的配慮
障害をもった受験生に個別に対応、宗教・ジェンダーで配慮が必要な受験にも対応
- 公正・公平性
Oqualの基準を基にした監査や、採点体制、外部研究者の検証によって公正・公平性を担保
採点基準を含むテクニカルマニュアルを公開 (*5)

対応が難しい点

- 試験実施形態への対応：PCまたはタブレットのみ

関連情報

*4 大学入試のあり方に関する検討会議(第10回)配布資料: https://www.mext.go.jp/content/20200625-mxt_daigakuc02-000008002_2.pdf

*5 Technical Reports: <https://www.britishcouncil.org/exam/aptis/research/publications/technical>

Thank you

- 117 -

2018年12月18日ワーキンググループにて確認依頼を頂戴いたしました2点につきまして、下記の通りご説明と関連情報をお送りいたします。

記

IELTS の問題作成をしております、IELTS パートナーのケンブリッジ大学英語検定機構は Office of Qualifications and Examinations Regulation (Ofqual: 英国政府の資格と試験に関する監査機関) から資格授与団体としての認定を受けています。(別添資料1と2)
政府からの認定を受けるために、IELTS パートナーの3団体(ケンブリッジ大学英語検定機構、ブリティッシュ・カウンシル、IDPIELTSオーストラリア)は、Ofqual「General Conditions of Recognition」(すべての資格授与団体に課されるルール: 以下ルールと記載)に沿って試験の実施運営を行っています。このルールでは、第三者機関(出版社を含む)との関係についても規定されています。IELTS は Ofqual の監査を定期的に受け、English for speakers of other languages (ESOL) qualifications として英国政府が定める基準を満たす英語資格であることが証明されています。

Ofqual の規定に関するサイト:

<https://www.gov.uk/guidance/awarding-organisations-understanding-our-regulatory-requirements>

また、様々な国の移民局や政府機関などからの要請により、IELTS は Ofqual のルールを基に、さらさらに厳しい規定を独自に設定し、世界的に試験の実施運営を行っています。(別添資料 3)

1. 各試験団体における試験対策問題集作成の基本的な考え方

<確認の観点>

- ・問題集に掲載する問題と実際に出題する問題との関係性はどのようなものか(基本的な考え方や同一問題又は類似問題出題の考え方など)
- ・英語力が向上していないのに点数が取れるような対策となっていないか

A. 問題集作成に関するOfqualのルールとIELTSの取り組み

- ・ Ofqual Handbook「General Conditions of Recognition」のSection C(別添資料 4)に下記の通りルールが示されています。

Condition C3 Arrangements with publishers 出版社との調整

C3.1 Where an awarding organisation has in place an endorsement process, the awarding organisation must:

(a) take all reasonable steps to ensure that the endorsement process does not have an Adverse Effect, and

(b) publish the criteria which it uses to decide whether or not to endorse a particular resource.

→ 資格授与団体は、悪い影響(利益誘導など)が出ないよう適切な段階を経て、承認基準を明確化し、出版物に対する承認を行うこと

C3.2 For the purposes of this condition, an 'endorsement process' is a process by which the awarding organisation endorses resources which are designed to support the preparation of Learners and persons likely to become Learners for assessments for a qualification which it makes available or proposes to make available

→資格授与団体が「承認プロセス」行うことにより、試験準備をしている学習者や受験を検討している学習者を支援する教材の提供を推進し、教材が入手しやすい状況にすることをめざすものとする

- IELTSは上記の規定に沿って、ケンブリッジ大学出版局から主に準備教材の出版を行っています。ケンブリッジ大学出版はケンブリッジ大学内の組織ですが、英語検定機構からは独立しています。IELTSは過去問を公開しておらず、教材に実際の試験問題が使用されることはありません。試験問題として使用しなかった素材は再編集し、研究や出版用に利用しており、ケンブリッジ大学出版の教材はこういった素材を利用しています。
- 「公式(Official)」として出版されているIELTSの問題集はケンブリッジ大学出版の「Official IELTS Practice Materials」のみです。この問題集は、IELTSパートナー3団体が認めている模擬試験体験ができる問題集で、解答の解説は短く添えられているのみで、「テストで良い点を取るためのテクニック」といった指導はしていません。また、翻訳本は出版されていません。

B. ブリティッシュ・カウンシルに係る日本での問題集作成について

ブリティッシュ・カウンシルでは出版社等からの依頼により、IELTS試験対策問題集の作成をお手伝いしております。Ofqualのルールを遵守し、ブリティッシュ・カウンシル英国本部からの承認と助言を基に、日本のブリティッシュ・カウンシルに係わって国内で作成出版された問題集は下記のとおりです。

- 1) IELTSブリティッシュ・カウンシル公認問題集 (旺文社編ISBN978-4-01094080-8)
 - 2) IELTSブリティッシュ・カウンシル公認・本番形式問題3回分 (旺文社編ISBN9-01-094200-0)
 - 3) ライティング・スピーキングも怖くないIELTS完全対策(大阪大学出版ISBN978-4-87259-588-8)
- 旺文社から出版されている1)と2)に収録された問題は、中国の北京言語大学が中国のブリティッシュ・カウンシルの監修で出版した問題集「IELTS Essential Guide」のために作成したものです。日本で翻訳をし、旺文社で日本人学習者向けの解説を付加しています。日本のブリティッシュ・カウンシルは翻訳と解説文の監修を行っています。
 - 大阪大学出版から出版されている3)に収録されている問題は、IELTSが2006年に出版したDVD「IELTS Score Explained」から引用しています。ブリティッシュ・カウンシルは全体の監修と、ライティングの解答例作成に協力をしています。解答例は、ブリティッシュ・カウンシル上海オフィスで教員研修を担当していた職員(試験官・採点者・試験実施部門ではない)が行いました。

2. 問題漏洩などの不正を疑われないために注意して取り組んでいること

<確認の観点>

- どのような漏洩対策を行っているか
- 関係規定はあるか

A. OfqualのルールとIELTSについて

不正防止に関する規定はOfqual Handbook「General Conditions of Recognition」のSection A(別添資料5)に示されており、英国の大学進学のための資格試験A-Levelを含むすべての資格授与団体はこのルールに沿って試験の実施を行い、IELTSも問題漏えいが起こらない対策をシステム化して全世界でおこなっています。

- 対策例 (別添資料 3 :Ensuring quality and fairness in international language testing 9ページ)
 - 1) IELTSパートナー機関による相互監査
The conditions of IELTS test centre operation include a comprehensive audit programme involving both scheduled site audits and spot audits, without prior warning, to ensure test centre operations are maintained at a consistently high level.

In 2006, the British Council and IDP: IELTS Australia established the Cross Partner Audit Programme as an additional measure to help ensure consistent service delivery across the global IELTS network. This programme enables spot audits to be conducted by IDP: IELTS Australia of centres managed by the British Council and by the British Council of test centres managed by IDP: IELTS Australia. The same audit documentation and reporting procedures are used by both partners for auditing all test centres across the global IELTS network.

→IELTSのテストセンターへの監査は、事前通知をしたうえで行う場合と、通告なしに突然行われる場合がありますが、どちらの場合にも安全性を高いレベルで担保したうえで試験運営がされていることが求められます。2006年からはより客観的に正確な監査を行うためにブリティッシュ・カウンシルとIDPとの相互監査システムも導入されています。

2) 試験問題の取り扱い

・ Every test version includes a unique combination of questions – no two versions of the test are the same.

・ Restricted user rights among test centre staff ensure access to test materials is controlled.

→異なる出題内容(テストバージョン)の使用。テストセンター内でのテスト問題取扱者を限定。

B. ブリティッシュ・カウンシルと英検でのとりくみ

ブリティッシュ・カウンシルが独自に作成した試験実施規定(IELTSの規定を厳格化)の導入により安全性を担保しています。

• 対策例

- 1) 試験監督者、採点者の管理
- 2) 試験問題管理施設の厳格な規定
- 3) 試験問題移動・開封・破棄に関する記録と管理
- 4) 不正にかかわる世界的な調査プラットフォームの構築
- 5) 組織内での定期的な監査と指導
- 6) 利益誘導や漏えいに対する規定とトレーニング
- 7) 国外での採点
- 8) 受験者と採点者の直接的な接触禁止規定の順守
- 9) ブリティッシュ・カウンシルIELTSグローバルチームによる英検テストセンターの監査と指導

以上、不明な点がありましたらお知らせください。